

4 . 平成 15 年度事業計画書

1 . 概 況

本会の会員数は依然減少を続けており、財務的には厳しい運営を迫られているが、本年度は出るを制するばかりでなく入るをはかることを目指して積極的な運営を展開してゆく。

本年度の活動の重点を次の 5 点におく：(1) 会員サービスの充実，(2) 研究活動の活発な展開，(3) 産業界への貢献，(4) 国際化の推進，(5) 学会運営の効率化。これらの各項目について主要な施策を以下に述べる。

先ず、会員サービスの充実については、学界および産業界双方の会員を対象とした、質の高い事業を行ってゆく。具体的には、昨年度の第 1 回目の情報科学技術フォーラム (FIT) の経験をもとに、名実ともに IT 分野でわが国最大の会議を目指して第 2 回目を開催する。出版面では、紙媒体、電子図書館およびオンデマンド出版の三形態を有効に活用し、価値の高い情報をタイムリーに出版してゆく。教科書および英文図書もシリーズが充実してきていることを梃子にして新規発行を増やしてゆく。また、コンピュータ博物館の充実を行い、わが国の歴史的資産の保存に努める。さらに、会員のより詳細なデータを収集分析し退会防止に繋がる新サービスを充実させる。特に会員数の減少が著しい産業界に対しては、産業フォーラムや連続セミナー等の産業界会員に役立つ活動を充実させる。その他、新しい分野の会員層の獲得を目指した戦略的な体制作り着手する。

また、研究会はユビキタスコンピューティング研究会を新設し、33 研究会、1 研究グループにより活動を行ってゆく。シンポジウムや講習会など行事も昨年とほぼ同じ頻度で開催するが、特に、FIT の企画には研究会が中心になって参画しプログラムの強化に努める。研究会が編集するトランザクションは掲載論文数が昨年度以降、安定してきており、今年度は発行回数を増やして質量共に充実したものとし、一般会員への購読拡大も図る。また、ジャーナルとトランザクションの編集委員会が連携して、ジャーナルの特集号の企画編集体制を強化する。

主に産業界の会員に役立つ事業としては、昨年度定款を改訂して増員した役員による技術者教育に関する事業の推進体制を強化し、技術者の生涯教育と本会独自の技術者資格制度の立上げを行ってゆく。昨年度から開始した JABEE からの委託によるアクレディテーションの本格実施も、事務局体制や審査員の養成など本会内の支援体制を充実させ、大学等での技術者教育の充実に貢献してゆく。また、標準化の面では本会独自の標準である学会試行標準制度の定着化を図る。

国際化の推進については、本会の活動や研究成果が国際的に発信されるように、Web ページの英文化を行い、また他学会との連携も含めて英文論文誌の発刊の検討を継続してゆく。また、本会のイニシャティブにより昨年 IFIP の中に新設された Entertainment Computing の活動を支援し、この分野の国際会議を創設する。

学会運営の面では、他学会との連携および学会マネジメントの電子化の 2 面から改善を図ってゆく。前者については、昨年度の電気・情報関連 5 学会のタスクフォースの答申の具体化に向けての検討を継続してゆく。後者については、Web ベースでの各種登録手段の会員への提供、電子投稿査読システムの構築、学会事務の合理化などを行ってゆく。

以上の諸施策を講じることによって、本会の目的が持続的に達成できるようにしてゆく。

2. 会 員

会員数を次の通り予定する。

	14 年度末	入 会	退会・除名	15 年度末
名誉会員	35	(正 名誉) 3	0	38
正 会 員	22,457	800 (学 正) 700	(除名) 703 (正 名誉) 3 (退会) 1,500	21,751
学生会員	1,805	900	(学 正) 700 (退会) 150	1,855
準会員	45	10	(退会) 5	50
会員合計	24,342	2,413	3,061	23,694
賛助会員	352	5	(退会) 8	349
(上段:社数 下段:口数)	468	5	(退会) 8	465

* 正会員には終身会員 167 名（本年度の該当者は 41 名）を含む。

2.1 退会抑制および入会促進

- (1) 会員数の減少を抑制するため、会員データ（職種、業種、役職、専門等）をより充実させ、適切なアンケート等を実施し、会員のニーズを把握して、退会の防止に努める。
- (2) 特に、会員数の減少が著しい産業界に対しては、産業フォーラムや連続セミナー、技術者教育等、産業界会員にも役立つ活動を充実させ、退会防止ならびに新規会員獲得を目指す。
- (3) また、会員の対象を、コンピュータ技術のみならず広く情報学関連分野をカバーするよう拡大させるための具体的施策を展開し、新たな会員層（伝統的なコンピュータ産業以外の分野の会員）の獲得を目指す。
- (4) さらに、引続き、広報活動の強化により新規入会会員の獲得を図る。
 - ・研究会、全国大会、FIT、講習会、支部大会、ほか共催、協賛、展示会等各種行事での入会促進
 - ・支部奨励賞等の支援による新規学生会員の獲得
 - ・準会員、学生会員の入会促進強化
 - ・賛助会員の新規加入推進
 - ・アドバイザー、アカデミア各メールメンバー協力による新入社員、新入学生等への入会推進
 - ・購読員、会誌購読員、論文誌購読員への新規登録推進

2.2 会員サービス

- (1) 会員にとって価値ある抜本的なサービス（例えば、資格制度や生涯教育等）に関する具体的施策について引続き検討する。
- (2) 関連学会と協力して、適宜、国（政府）に対する各種提言や意見表明等を行い、会員である情報技術者の地位向上に繋がることを目指す。また、FIT の開催等のように、関連学会との連携活動を推進することにより所属学会員の活動に役立てていく。
- (3) 次項「3. 電子化・情報発信」による各種サービスの充実を図る。
- (4) その他、Web 購読、メールフォワードサービスの推進、ならびにホテル、レンタカー、書店等との協定拡大による会員優待の充実を図る。

3 . 電子化・情報発信

- (1) 学会マネジメントシステムの一次システムの検証および機能拡張
 - ・一次システムの評価に基づく機能強化および機能拡張検討
 - ・Webからの会員情報登録更新を行うための認証システムの構築
- (2) 査読支援システムの構築
ジャーナル/トランザクションの電子投稿を含めた査読支援システムの構築をする。
- (3) 英文ホームページの充実
- (4) 電子図書館サービスの有料化の検討
- (5) コンテンツDBのアウトソーシング化
- (6) システムセキュリティの改善
- (7) イメージコンテンツのテキスト化の検討

4 . 会議の開催

4.1 第45回通常総会

平成15年5月20日(火)にホテルJALシティ田町東京(東京都港区)で開催する。

4.2 理事会

年度間に11回開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

4.3 支部長会議

各支部活動の現況報告のほか、本支部間の連絡、要望等について審議、検討する。

5 . 表彰等

5.1 功績賞

5.2 論文賞

5.3 研究開発奨励賞

5.4 山下記念研究賞

5.5 大会優秀賞, 大会奨励賞

5.6 優秀教育賞, 優秀教材賞

5.7 業績賞

5.8 学会活動貢献賞

このほか、名誉会員の選定、フェローの認証、感謝状の贈呈等を行う。

6 . 機関誌編集活動

6.1 会誌「情報処理」(月刊)

(1) コンテンツ

会誌「情報処理」は、1998年4月から編集長制に移行し、学会機関誌であると同時に25,000人の読者を持つコンピュータ・サイエンス・マガジンとして好評を得ている。これは、編集長のイニシアティブを発揮しやすい体制、企画会議主導の内容構成、モニタ制度によるフィードバックなど、昨年度までの施策が功を奏しているものと考えられる。今年度は、昨年度に引き続き、より非会員にもアピールする内容をも重視し、会員増強の一助となることを目指す。特に、昨年度も重点項目であった、モニタ制度の有効活用を含めた、より効果的なフィードバックを模索する。

(2) 会誌とオンデマンド・印刷出版との有機的な連携

現在、会誌は、(1)通常の紙媒体、(2)電子図書館による会員へのPDFダウンロード、(3)Book Parkを通じたオンデマンド出版の3つの形態で配布されているが、それらの間の連携は必ずしもスムーズでない。今後、電子化委員会と密接に連携しながら、これらの出版形態をよりわかりやすくし、価値の高いものにする。さらに、IP SJメールニュースによる会誌内容の紹介や広告の募集なども考える。

(3) 会誌資産の有効利用

会誌の40年間に及ぶコンテンツは、情報処理学会の貴重な財産であり、これを有効に活かすことによって、学会員へのサービス向上、非会員へのアピール、さらには学会の財政状態にも貢献することができるものとする。また、25,000人の読者ベースは、広告媒体としても貴重な資産と言える。具体的には、立ち読み機能の追加、検索エンジンへのヒット率の上昇、コンテンツの一括販売などを考える。また、過去の会誌でイメージとして保存されている記事の文字符号化も検討する。

6.2 「情報処理学会論文誌」全般

(1) 「情報処理学会論文誌(ジャーナル)」の月刊体制の維持

一般論文、特集論文を含めた月刊体制を維持する。論文数は前年規模とする。

(2) 編集企画体制の検討・強化

編集委員会幹事会の改組に伴い、特集号を含む編集企画体制の検討・強化を行う。

(3) 発信方法の検討

電子化、英文化を含め、ジャーナル/トランザクションの発信方法の検討を行う。

6.3 著作権

著作権について、共催問題、他学会論文投稿等の法的解決に向け、関連学会との協定に向けた話し合いを進める。

7. 事業活動

下記の各催しについて、活性化と財務改善を検討のうえ実施する。

7.1 第2回情報科学技術フォーラム(FIT2003)

会期：平成15年9月10日(水)～12日(金)

会場：札幌学院大学

7.2 第66回全国大会

会期：平成16年3月9日(火)～11日(木)

会場：慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス

7.3 連続セミナー2003

テーマ：ユビキタス社会の実現に向けて～インフラからサービスまで～

会場：工学院大学(予定)

開催時期：

第1回	平成15年6月23日(月)	最新のソフトウェア開発技術
第2回	平成15年7月予定	Webデザインとヒューマンインタフェース
第3回	平成15年9月26日(金)	コンテンツとサービス

第4回	平成15年10月7日(火)	ユビキタス空間ネットワーク
第5回	平成15年11月26日(水)	セキュアネット
第6回	平成15年12月予定	グリッドコンピューティング

7.4 産業フォーラム

平成14年度に引き続き、年度間6回程度の開催の予定。テーマ等はなるべく早く決定し、早めに広報を行う。また、本フォーラムの開催形態、聴講参加費等の検討をする。

- (1) ITS
- (2) 次世代インターネット
- (3) 情報家電
- (4) Webコンピューティング

7.5 プログラミング・シンポジウム

- (1) 第45回プログラミング・シンポジウム(会期：平成16年1月7日(水)～9日(金)，会場：ウェルシティ湯河原)
- (2) 夏のプログラミング・シンポジウム(会期：平成15年8月20日(水)～22日(金)，会場：三谷温泉平野屋(愛知県蒲郡市)，テーマ：データの達人)
- (3) 情報科学若手の会(会期：平成15年8月末頃開催予定，会場：未定)

7.6 新規事業の企画・立案

8. 出版活動

- (1) 教科書シリーズの継続発行
年3～5冊のペースで発行する。
- (2) 英文図書"Advanced Information Technology Series"の継続発行
年4冊程度のペースで発行する。販売促進も積極的に行い、オンライン出版も視野に入れる。
- (3) 情報フロンティアシリーズの継続発行
- (4) 単行本の発行
会誌編集委員会と連携し、会誌掲載記事から優秀な記事を再編集し、単行本として発行する。
- (5) 歴史特別委員会
 1. 歴史的資料の収集・整理・保管を引き続き行う。
 2. 「コンピュータ博物館」の充実
 - ・歴史的コンピュータの年表および写真にオフコン，関連文献等の追加を行う。
 - ・オーラルヒストリーの追加

9. 調査研究活動

9.1 研究会，調査委員会，研究グループの活動計画

次の5点を重点事項として取り組む。

- (1) 新規分野の開拓
- (2) 調査研究関連委員会の構成と役割の検討
- (3) 領域制の見直し

- (4) 関連諸活動との連携と協調（FIT，全国大会，国際等）の強化
- (5) トランザクション（研究会論文誌），研究報告の Web 化（電子化委員会との連携）推進

9.2 領域委員会（3）

3つの領域に対応して本年度も以下の領域委員会を設け，研究会活動の活発化を図る。

- (1) コンピュータサイエンス領域委員会
- (2) 情報環境領域委員会
- (3) フロンティア領域委員会

9.3 研究会（33），研究グループ（1）

以下の研究会，研究グループにより研究会活動を推進する。新たな研究会「ユビキタスコンピューティング*」が発足し，1研究会が名称変更する。

[コンピュータサイエンス領域]

- ・研究会（9）（研究会名の括弧内は英略称）

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），計算機アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システム LSI 設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS）

[情報環境領域]

- ・研究会（15）

マルチメディア通信と分散処理（DPS），ヒューマンインタフェース（HI），グラフィクスと CAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報学基礎（FI），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），分散システム/インターネット運用技術（DSM），デジタル・ドキュメント（DD），モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL）（名称変更），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システム（ITS），高品質インターネット（QAI），システム評価（EVA），ユビキタスコンピューティング（UBI）（新設）

- ・研究グループ（1）

放送コンピューティング（BCC）

[フロンティア領域]

- ・研究会（9）

自然言語処理（NL），知能と複雑系（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI）

9.4 トランザクション（研究会論文誌）の発行と計画

発行の安定性と持続性，ジャーナルとの協調，発行部数拡大を目標に 5 誌の発行を計画し，このほか新規発行計画を促進する。

トランザクションの編集・発行計画

プログラミング（PRO）	年間発行回数：3
数理モデル化と応用（TOM）	年間発行回数：3
データベース（TOD）	年間発行回数：4
コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	年間発行回数：2
コンピューティングシステム（ACS）**	年間発行回数：4

**：ハイパフォーマンスコンピューティングシステム（HPS）の発展による新規発行。

9.5 シンポジウム・講習会等 (24 件)

シンポジウム・講習会等名	主催研究会 略称	期 間	場 所
先進的計算基盤システム シンポジウム SACSIS 2003	ARC,OS,AL, PRO,HPC	H15. 5.28 (水) ~ 30 (金)	学術総合センター会 議場
マルチメディア,分散,協調とモバイル (DICOMO 2003)シンポジウム	DPS,GN,DSM,MBL,C SEC,ITS,QAI,UBI	H15. 6. 4 (水) ~ 6 (金)	ニュー阿寒ホテルシャ ングリラ (北海道)
DA シンポジウム 2003	SLDM	H15. 7.22 (火) ~ 24 (木)	遠鉄ホテルエンバイヤ (浜松)
オブジェクト指向 2003 シンポジウム	SE	H15. 8.20 (水) ~ 22 (金)	早稲田大学西早稲田 キャンパス
情報教育シンポジウム	CE	H15. 8.20 (水) ~ 22 (金)	スズキ荘観月園
モバイルコンピューティングと ユビキタス通信シンポジウム 2003	MBL	H15.10.10 (金)	未定 (東京近郊)
並列処理による数理モデルと 問題解決	MPS	H15.10.23 (木) ~ 24 (金)	同志社大学
マルチメディア通信と分散処理 ワークショップ	DPS	H15.10. 中旬 (未定)	未定
コンピュータセキュリティ シンポジウム 2003	CSEC	H14.10. 下旬 (未定)	未定 (九州)
ユビキタスコンピューティング システムシンポジウム	UBI	H15.10. (未定)	未定 (京都)
IS ワークショップ	IS	H15. 10. (未定)	未定 (東京近郊)
ゲームプログラミング ワークショップ 2003	GI	H15.11. 7 (金) ~ 9 (日)	箱根セミナーハウス
コンピュータシステム・シンポジウム	OS, EVA	H15.11.10 (月) ~ 11 (火)	日本科学未来館
デジタル・ドキュメント・ シンポジウム 2003	DD	H15.11.25 (火)	NII (一ツ橋)
AVM シンポジウム	AVM	H15 11. (未定)	未定
データベースと Web 情報システムに 関するシンポジウム DBWeb2003	DBS	H15.12. 2 (月) ~ 3 (火)	オリンピック記念青少年総 合センター(東京,代々木)
人文科学とコンピュータシンポジウム	CH	H15.12. 初・中旬 (2日間)(未定)	大阪市立大学
2004 年情報学シンポジウム	FI	H16. 1.15 (木) ~ 16 (金)	日本学術会議講堂
高度交通システム 2004 シンポジウム	ITS	H16. 1.16 (金)	NII (一ツ橋)
ウインターワークショップ	SE	H16. 1.22 (木) ~ 23 (金)	未定
分散システム / インターネット 運用技術シンポジウム	DSM	H16. 1.22 (木) ~ 23 (金)	麗澤大学
2004 年ハイパフォーマンスコンピューティ ングと計算科学シンポジウム (HPCS2004)	HPC	H16. 1. 下旬 (2日間)(未定)	未定

インタラクシオン 2004	HI, GN	H16. 3. 4 (木) ~ 5 (金)	未定
チュートリアル: 音楽プログラミング	MUS	未定	未定 (関東)

9.5 小規模国際会議 (1 件)

- ・ Japan-Korea Joint Workshop on Algorithms and Computation

H15. 7. 3 (木) ~ 4 (金) 東北大学

10. 教育活動

(1) アクレディテーション

1. 日本技術者教育認定機構 (JABEE) の活動に参画し, 本審査を実施する。
2. コンピュータサイエンス (CS), ソフトウェア工学 (SE), 情報システム (IS) 分野について, 認定基準の整備を続ける。また, 財政基盤および事務局体制について検討を進める。

(2) カリキュラム

1. コンピュータサイエンス (CS) の中核部分をコンピュータ工学 (CE), ソフトウェア工学 (SE) と情報システム (IS) との関連で明らかにする。
2. 初等・中等教育における情報教育とともに, これに接続する大学における一般情報教育についても引き続き文部科学省に提言を行っていく。

- (3) 技術者の生涯教育について検討する。技術士制度と関連して学会独自の資格制度も検討して, これに向けた教育カリキュラムの開発, 普及方法を検討する。

11. 国際活動

11.1 海外学会との連携・協力による会員サービスの向上

IFIP や米国の ACM, IEEE-CS, 韓国 KISS を始め, アジアの関係学会との連携を深める。

11.2 IFIP 活動への参加と活用

(1) IFIP 活動の会員への広報と産業界との連携推進

- ・ 会誌に IFIP 活動の解説記事を掲載する。
- ・ 電子情報技術産業協会 (JEITA) (旧電子協 JEIDA) を通じて産業界との連携を図る。

(2) IFIP TC/WG への委員の積極的な参加

- ・ IFIP TC/WG への委員の参加を推進するため, 本学会の交流援助金を活用して支援する。

(3) 新設された Entertainment Computing SC の活動支援

11.3 東南アジアコンピュータ連合 (SEARCC) の活動への参加

- (1) アジア圏の国々で新設された AIC と従来の SEARCC の活動を比較し, 本会として連携を計るべき組織について再検討を行う。
- (2) 2003 年マレーシア大会への参加: 2003 年 4 月 5 日 (土) ~ 6 日 (日) クワラルンプール (予定)
- (3) Regional Interest Group (SRIG) の活用
情報処理学技術者の相互認証, など

11.4 IEEE-CS との協力関係の強化

(1) IEEE-CS / 本会共催の国際会議

「The 2004 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2004)」の開催準備

対象分野：Internet の Infrastructure と Applications

IEEE-CS と本会が founder (毎年共催) で第 4 回目の開催となる。

開催日：2004 年 1 月 26 ~ 30 日予定，開催地：日本，予定参加者：150 ~ 250 人

General Chairs 当会：尾家祐二(九工大)，IEEE-CS: Sumi Helal(University of Florida, USA)

Program Chairs 当会：下條真司(阪大)，IEEE-CS: Erich Neuhold(Fraunhofer-IPSI, Germany)

(2) 本会の会誌と「The Computer」論文の相互翻訳転載の促進

11.5 ACM との協力関係の強化

本会の会誌と CACM 論文の相互翻訳転載の促進

11.6 国際会議の主催・共催と会議の支援

(1) 情報処理学会主催・共催の国際会議の推進を計る。

(2) 主催・共催国際会議で、情報処理学会アワードやチュートリアル開催支援などを実施し、学会の存在をもっとアピールする。財源は国際会議の剰余金を活用する。

12. 規格調査活動

12.1 国際活動への積極的貢献

(1) 機会があれば Chairman, Convenor, Project Editor を積極的に引き受ける。

(2) 幹事国業務を担当できる人的資源を拡充し幹事国業務担当能力の強化・安定化を図る。

(3) 日本から NP 提案して承認され、中国および韓国と連携して開発を進めている「メタモデル相互運用のためのフレームワーク」は経済産業省の国際規格共同開発事業に応募して財政的支援が受けられることになり、関係者の密なコミュニケーションが可能となったので短期間で効率的な開発を目指す。

12.2 学会試行標準の定着化

すでに承認されている NP (新規作業項目) を少しでも早く公開できる段階まで進捗させることに全力を傾けるとともに新たなプロジェクトを模索し、制度の定着化を図る。

12.3 ホームページの積極的活用と電子化の推進

今年度は委員名簿や議事録などの公開を積極的に推進し、当調査会の運営の実体により多くの関係者から詳細にまた正確に理解されるようにするとともに、協力が得られるようになることを目指す。また昨年技術委員会の審議文書をホームページで配布して経費面や配布の迅速化で効果があったので、今年はその手法をその他の委員会に展開する。

12.4 電子政府への協力

昨年の 10 月に日本規格協会と国立国語研究所と共同で経済産業省から受託した電子政府のインフラとなる文字情報の整理体系化事業を本年度も引き続き推進し、2003 年 10 月に予定されている試験運用を成功に導くため進捗管理や開発遂行体制の強化を図る。

13. 関連学協会・日本学術会議等との連絡・協力

- (1) 電気・情報関連学会連絡協議会（仮称）への参加
- (2) 日本学術会議との連絡・協力
- (3) 日本学術会議 3 研連役員と関連学会役員との連絡会議
- (4) 日本工学会ほか関連団体との連絡・協力
- (5) 文部科学省所管のサイエンスボランティア活動への参加

14. 支部活動

- (1) 支部総会，役員会，支部大会，電気関係学会連合大会等の開催
- (2) 支部活動支援体制の継続（支部総会への本部役員派遣，講演会講師の紹介，周年行事等への助成，支部役員選挙の同時実施等）

15. 情報公開の実施

16. 事務局業務の改善

適切な人事ローテーションの実施，講習会への参加等による事務能力の向上，および電子化の推進による事務の合理化を行う。

以上